川上ダム計画に対する意見

伊賀市　浜田不二子

グリーンツーリズムの計画もあると聞く川西の地に
コンクリートのダムは似合いません。
伊賀市長は景観を大切にした町づくりをすると
発表しておられますから、それに従えば、この際は「緑の
ダム構想」を、しっかり取り組まれたら、すばらしい
景観を保たれて、いつまでも、自然が身近かにある
暮しの魅力ある伊賀であり続けることになるでしょう。
すでに、関連事業（道路や、ハーモニーフォレスト）が、
並行して自然は広範囲で破壊をされました。
自然が好きで、自然だけは豊かな伊賀に住む私は、
これ以上の自然破壊に耐えなければならないのは、
不幸以外のなにでもありません。
しかも私たちの多額な
税金が使われて、自然が破壊されるなんて、到底
合いません。
自然と共に在る生き方、暮し方の知恵を、
みつけましょう。
その為の協力なら、惜しみません、そのかわり、
コンクリートのダムだけは、ごめんです。

川上ダム建設に対する意見

桐ヶ丘住民を侮っていませんか？

川上ダムの計画が打ち出されたのは３８年前ですが、桐ヶ丘団地造成は、２４年前からです。それなのに桐ヶ丘住民は、川上ダム建設計画があることを知らずに移り住んで来ています。住み始めてから、住民説明会が開催されて知らされたのです。ダムと団地はたったの３００メートルの土手を隔てただけの鼻中合わせに暮らすことや、周辺の地質等について考えたこともない人達がほとんどです。

水資源公団（現在は水資源機構）は、事業計画として年一回の住民説明会を行ってきました。予告して開催されていますが、実にささやかな会であることを、近年参加してみて知りました。予告も人の目から見落とされがちな地味なものであります。他の事ならカラー用紙を使って新聞折込みまでしているというのに、この件については回覧板にはさんだ白い紙、黒インキで小さな活字２，３行の一枚だけです。このように、ダムの住民説明会は重要でないというお考えなのか。あるいはたくさん来てもらっては困るというお考えなのか知りませんが、この状況をしっかり踏まえていただきたいと思います。

私達の会は、広報にも大きく載せて新聞折込みもするほどに重要なダム計画であることを、２年間の学習活動の中で学んできました。昨年度の説明会情報をいち早くキャッチして独自のチラシを作り、桐ヶ丘全戸配布を行いました。当日、説明会場にはこのチラシを手にして参加し、質問する人たちが居ました。人数も１０人足らずの一昨年と比べて３倍以上は集まった会となりました。概ね、主催者からの事業進捗度や影響調査報告に時間が費やされ、住民からの質問に充分応えてもらえない時間切れの解散の会となりました。開催の記録・内容は知りませんが、住民の目からみた状況は以上です。

今までの住民説明会は、唯、既成事実を取り付けるだけのものではなかったかと思われます。

事業の危険度をごまかしたり、警告を怠ると、自然災害は一転して人災となっていきます。どちらにしても不利益や害を被るのは住民であります。桐ヶ丘住民に万が一災害が及んだ時、今のままでは何の補償もありません。水資源機構の事業報告会と化している住民説明会を改めて、住民の安全・公共の面から科学的根拠にもとずいた説明会を開催するよう強く要望したいと思います。

伊賀市　　浜田　不二子

■　なぜ　そんなにダムを造りたいのですか。

今年の伊賀には、春はゆっくり、ゆっくりとやって来ました。
今、桜の花が青空に映えて盛んに咲いています。　こんなに
うれしそうにウキウキ咲く桜の命を、咲く場所があればこそです。
子どもらが来て花を摘んでも　枝にかぶりついたりしないうちは大丈夫。
そういえば、ここしばらく子ども達の声が聞こえなくなりました。
そのかわり、ダムのための道路工事と土を運ぶ大型トラックの音がずっと鳴り響いています。
空中を舞うボクらの仲間や、水辺に生きる仲間達が、工事の音を聞きながら「これから
どうなるんだろう」と、ささやき合っています。　田んぼいの仲間は、またまた皆さんの
畑を荒してしまうかもしれません。　許してもらえないでしょうが、わかって下さい。食料がないのです。
事社会のために犠牲になって命を落とす仲間が後を断たず、本当に悲しいです。
生きるって楽しいことばかりじゃありませんね。
川上に住んでいた人達は、ひとりぼっちで移転してゆきました。
はじめは、ダムを造らせないって、みんなでいっていたのに、補償の条件を出されて、かわっていった
そうです。　短かい年月で　ダム計画が発表され、無理に心を変えたのですから、つらかったと思います。
川上にみんなで住んでいた頃をときどき思い出します。
ボクらは　川上に、あいかわらず生きています。　ボクらのいのちには、権利も補償もなくて、
あるのは、生命力だけ。　それこそダムができたら、ひとかたまりもないいのちです。
でも、ボクらは、今川上で、春を感じて生きています。
離れて暮すことになった人たちも、ボクらのことを忘れていないと思います。
川上は、ホントに、いい所です。
だから　川上にダムを造ってほしくない。　どうしてダムを造るのか理解できないでボクらは
ダムができなければ　いつかだれかは戻って来てくれるかもしれない。
そんなことを、願いながら、生き続けています。
春の光に輝いているボクらのいのちの姿をみたら、きっとうれしくなると思います。
来てみて、ゆっくりしていって下さい。　いつでも歓迎です。

川上に棲むいのちたちより。